

世界を震駭すべき



「對馬海峽地下鐵道」

杉山茂丸

英佛海峽地下鐵道
國家的事業、否世界的の事業として、先年來余は同志と共に諸所の海底鐵道を計畫して居る。此の事業たる、發展性ある我が帝國に取つて、最も緊要なる焦眉の事業である。蓋し、帝國は朝鮮及び租借地を除いては、海中に散在せる列島國である。即ち

大陸からは隔離せられて居る。然るに文明的生活をする國家が、斯く隔離せる島國たることは、非常に都合が悪い。現に歐洲大戰に際して、英國が島國たりし爲めに感じた苦痛は如何ばかりであつたらう。されば、今や英國も因襲と利害關係との紛糾を排して英佛間に海底鐵道の敷設を企てる居

る。我が日本も、海底を通じて島嶼間、若しくは大陸との間を連絡することは經濟上に軍事上に、其他凡ての方面から見て極めて切要なことである。就中、余が、對馬海峽の底を潜つて、朝鮮に達する隧道の計劃を最も急務とする所以も茲に在る。斯くして始めて我國は島國の位置から大陸の一部となるのである。地理上表面の海水の隔絶は何等の支障をも來さず、一路直ちに東京より支那朝鮮へ、更には獨佛英の諸國に連ることとなるのである。

津輕海峽測量

就ては數年來、余等が關門海峽の海底連絡鐵道の企劃をなすや、同時に他の諸海峽

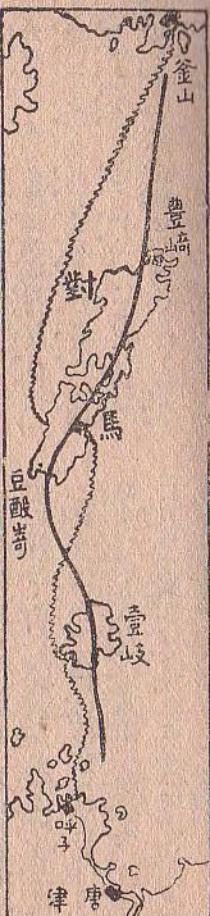
の下調査をもなした。而してその重なるものは、津輕海峽及び朝鮮海峽であつた。此の兩者を比較すれば、距離の點では津輕海峡が遙に短いが、工事の難易は同日の談ではない。何となれば、朝鮮海峽は地質学者が、太古陸地で接續して居たと唱へる程に、水底概ね淺く、且つ中間に諸島が群在して居るので、島から島へ通じて連絡をするには左したる困難を感じない。然るに津輕海峡の方は水底深くして且つ中間に島嶼が乏しい。勿論、水底如何に深くとも、鑿道の工事を施すに至難を感じないが、何よりも不便是のは、隧道の諸所に空氣抜きのないことである。即ち鑿道は新式の壓搾空氣應

難き事である。

工費二億五千萬圓

用の方法を以てすれば、數千尺の海底をも掘り抜けることが出来れど、隧道の最も大切な條件として、相當の距離の間に空氣抜きの爲め、隧道の直上を貫いて水上に達する豎坑を要する。これは言ふ迄もなく、點在する島嶼を貫く外はない。或は島嶼ならずとて、水面下に潜れた暗礁でもよい。それに施工して豎坑を造るのである。朝鮮海峽の方法はその設備に事を缺かないが、津輕海峽はさうは行かない。強ひて行へば海中に多數の捨て石をなし、それにコンクリートを作用させ、以て人工的に岩礁を築き、更にこれを豎に貫く坑を鑿らなくてはならぬが、それは言ふ可くして甚だ行ひ

茲に於て比較的短距離なる津輕海峽よりも、遠くても施工に容易なるは朝鮮海峺等は工務研究所長の川上博士に托して、これが調査を試みて居る。大體は略具體的に非ずして後者にある。斯る見地より、余は工務研究所長の川上博士に托して、これが調査を試みて居る。大體は略具體的に決定し、費用の概算等も出來て居るが、何しろ世界的の大事業なる上に、事、外國に影響する點多き爲め、未だ詳細を發表する譯には行かない。坊間の臆測として、佐賀縣唐津の附近なる呼子より、加部島、加唐島より壹岐島の南端に上陸し、北走してそ



の勝本より海に入り、對島海峽の底をくつて對馬の豆駿崎に上陸し、對馬一島を縦走して豎崎より一直線朝鮮の釜山に至る線を探用するのが最も適當であらうとされるが、余等の計画も、大體それに等しからうと思ふ。而して此の間の距離は約百哩と見て差支なからう。若しさうすると、一哩の工費假に二百五十萬圓と見て、一億五千萬

圓を要すれば、完成する見當であるが、余等の計画では、それよりも遙に多額にも見積り得れば、遙に少額でも出来る筈である。而して工程の日數は、約三十ヶ年と見て差支あるまい。機械と人間とを用ゐること多ければ一層速に完成する策もある。何しろ中間に島嶼が多いことだから、數ヶ所より同時に開鑿するの便がある。

關門海峡鐵道に就て

然ばこれを民間の事業とするか、國家の事業とするかと言ふに、経費を節約し、竣工を速かならしめんには、民間事業たるに限るけれど、帝國の政府としては、多分斯る世界的大事業を民間には委ねないであらう。關門海峡すら、種々の顧慮からして余等が再三提出せる案を斥けて、政府で計画することとなつた位である。しかも、關門海峡の如き、余等の達成策に依れば、最も急いで三ヶ年間に完成し得る所を、政府は七ヶ年を要するといふ。これには海外へ技師を派遣して視察せしめたりなど、準備に手間取れるからである。何れにせよ、

て置いたならば、假に二千年を閑し、數億圓を費して開鑿したからとて、その犠牲は十年ならずして償はるべき事、少しく數理を詮んずる人の知る所であらう。今や朝鮮満洲は勿論、西比利亞に蒙古に、帝國の權威を發揚すべき地は、愈々益々此の海峡の彼方に擴つて居る。まして一路歐洲の野に

朝鮮海峡の如き、一日も忽にすべからざる場所では、出來得る限り速に着手し、且つ工程を急がなくてはならぬ。況んや三十年の長日月を要せずんば成功し難きに於てをやである。然るに、事實は、余等一部の有志を除いては、未だこれを誇大妄想狂の言の如く思ひ、當局者も實業家も、眞面目に聽いて呉れないのは遺憾至極である。
尚ほ此の隧道開通の曉、我が帝國並に世界に對して如何なる利益を與ふべきかは言ふ迄もないが、殊に帝國がこれによつて大陸の一部となり、軍事上、交通上、貿易上に及ぼす影響は甚大なるものであらう。若しその設備を完全にして、複々線にてもし一致一日も早くこれを完成したい。

通するに至つては、將來、極東の中心たるべき帝國が此の一隧道に依つて享受し得べき利益の絶大は思ひ半ばに過ぐるものがある。併しこれは破天荒の大事業である。スエズ、パナマの運河も、英佛海峡隧道も比較にならぬ程の大事業である。國民は協力

コートと云ひたい程のぼろ洋服にシルクハ

ットを冠ぶり廣告屋に備はれたりする。死

ぬと當地の初野病院に於て解剖する約束になつてゐる。燐燐縣會とは三十日の會期中二十日以上も遊んで送り五六日間に燐燐を

つけて議事を審議するから、縣人が冷かし

全 國 宇 都 宮 名 物 投 書 (吉 郡)

宇都宮名物、古い處は「釣天井」事件であらるが、現代における名物は僅かに七色唐辛子と藤田寅吉翁と安並料理店の「鰻の蒲焼」と栃木縣會が「燐燐縣會」だと言ふ。三位のものである。寅吉翁は年齢既に六十脊丈タツタ尺の小男で秀才無し然し年中柄に似合はず無い丁寧のやうな大聲を振り立て、唐辛子を賣り廻り、偶にばドロツク